

2015年4月号

4月15日(水)

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 223



湿原の色…

このところの暖かい陽気で雪が解け、ひょっこり顔を出したイイズナのように湿原は白から茶色に変わりつつあります。茶色の中をよく見ると、フキノトウの淡い緑、バイケイソウの鮮やかな緑、フクジュソウの黄色、長い旅を終えたベニマシコやノビタキのやさしい赤やオレンジ色…。何も無いように見える湿原で色探しをしてみると、意外な春を感じることができるかもしれません。

～温根内ビジターセンター 木道周辺の自然情報～



～温根内探勝木道周辺の自然～



【アキタブキ(フキノトウ)】
 キク科 秋田落
 雌雄異株で写真は雌株です。細長い雌しべがたくさん見られ、1mほどにも生長し、実が熟すと綿毛をつけて風に飛ばされます。



【アキタブキ(フキノトウ)】
 キク科 秋田落
 雌雄異株で写真は雄株です。星形に見える小さな花がたくさん集まっているのがわかります。花粉を飛ばすと役目を終えて枯れてしまいます。



【エルタテハ】
 タテハチョウ科
 成虫で越冬するエルタテハは早春の湿原周辺でいち早く飛び始めます。羽の裏面に白い小さな「L(エル)」の斑紋があるのが特徴です。



【エゾアカガエル】
 アカガエル科 蝦夷赤蛙
 湿原内から「キャララ…」と甲高い声が聞こえてきました。冬眠から目覚めたエゾアカガエルの、オスからメスへのラブコールです。



【エソヤチネズミ】
 ネズミ科 蝦夷谷地鼠
 草地を好み、釧路湿原周辺でもよく見かけます。主に植物食で、頭胴長(尻尾を除いた長さ)は10センチほどの小さなネズミです。



【イイズナ】 飯綱
 イタチ科
 北海道と本州北部に生息する日本最小のイタチです。大きさは尻尾を入れても20センチほど。ネズミ類や昆虫類などの小動物を食べています。

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

○表紙の写真 上:イイズナ 中右:エソヤチネズミ 中左:ベニマシコ 下:フクジュソウ

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

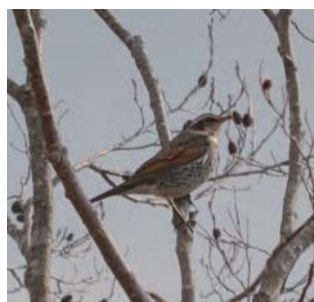
温根内周辺はカラ類がさえずり、キツツキのドラミングが聞こえ、とてにぎやかになってきました。夏鳥たちもこれから続々と生まれ故郷の釧路湿原に戻ってきます。これから6月中旬までは絶好のバードウォッチングシーズンです。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出ししています。お気軽にご利用ください。



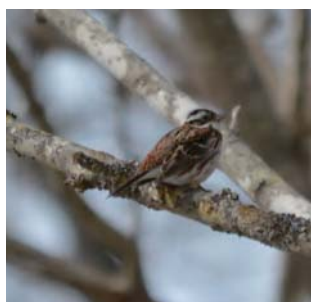
【ベニマシコ】 紅猿子
アトリ科 夏鳥(一部越冬)
「ピッポ、ピポポ」という声で存在に気づきます。温根内では早春にやってくる夏鳥で、赤い姿と長い尾羽が人気の野鳥です。



【ノビタキ】 野鶇
ヒタキ科 夏鳥
東南アジアなどから繁殖のために生まれ故郷の温根内に戻ってきました。春の湿原を演出するやさしいさえずりはまもなくです。



【ツグミ】 鶇
ヒタキ科 冬鳥
冬を温根内で過ごしたツグミは繁殖期を控え、北へと旅立ちます。主な繁殖地は極東ロシアで、次に出会えるのは10月後半です。



【カシラダカ】 頭高
ホオジロ科 旅鳥
越冬地から繁殖地の大陸へ渡る途中に温根内へ立ち寄りします。この時期は複雑で可愛いさえずりの声を聞くことができます。

○温根内木道で観察された鳥(3月15日～4月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ■オオハクチョウ■マガモ■ミコアイサ■キジバト(4/9初認) ■アオサギ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■チュウヒ■ハイタカ■ノスリ■コゲラ■コアカゲラ■アカゲラ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒガラ■ヒバリ(4/1初認)■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミノサザイ■ムクドリ(3/27初認) ■ツグミ■ノハラツグミ■ノビタキ(4/12初認) ■ハクセキレイ(4/12初認) ■カワラヒワ(4/12初認) ■ベニマシコ(3/18初認) ■シメ■カシラダカ■オオジュリン(3/27初認)

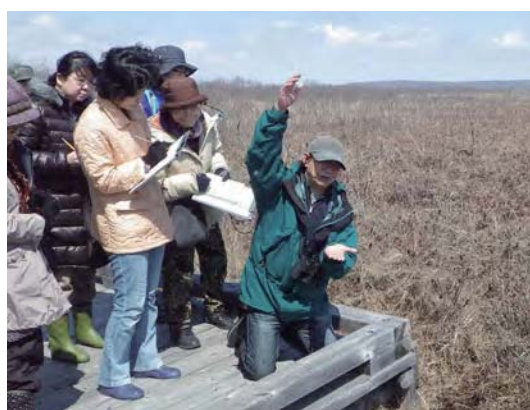
特定外来生物アメリカミンクにご注意を！

日に日にあたたかくなってきた温根内木道周辺では、特定外来生物のアメリカミンクが活発に活動を始めました。エゾアカガエルやニホンザリガニ、魚類や水生昆虫、野鳥などを食べてしまうので、生態系に悪い影響を与えます。好奇心が旺盛で、近づいても逃げない場合がありますが、決して触らず、エサなどを与えないようお願いいたします。

【アメリカミンク】 イタチ科 北米原産 籠脱け等が野生化し繁殖



☆☆☆自然ふれあい行事「早春の湿原ハイク」が開催されました☆☆☆



4月12日(日)、釧路湿原パークボランティアの若山氏の案内で、早春の湿原ハイクが開催されました。

一見春とは思えない一面茶色の湿原で春を探しました。今年度最初の観察会ということで、釧路湿原をより分かりやすく知ってもらうため、楽しい湿原クイズと湿原ビンゴを行いました。「今の気温は何度？」という問題から始まり、タヌキモの生態や毒草の問題など湿原の植物に関することが中心のクイズに答え、フキノトウや芽吹き始めたカラフトノダイオウなどから春を感じました。また、湿原内に立派なエゾシカの角が落ちていたり、オオハクチョウが上空を飛びなど、一味違った春を感じる事ができた観察会でした。参加者：17名

☆☆☆☆自然ふれあい行事 平成 27 年度の予定☆☆☆☆

5月

○春の湿原ハイク 定員 15名
10日(日) 10:00~12:00

ようやく春が訪れました。よく見ないと見過ごしてしまう春の花を探しましょう。



○早朝バードウォッチング 定員 15名
24日(日) 8:00~10:00

湿原は繁殖期を迎えた野鳥のさえずりで大賑わい。何種類の野鳥を見つけられるかな?

9月

○秋の湿原花ハイク 定員 15名
13日(日) 10:00~12:00

まもなく花の季節が終わります。華やかな秋の花を観察し、今シーズンを締めくくりましょう。



10月

○ザリガニウォッチング2~ニホンザリガニ編~
18日(日) 10:00~12:00 定員 15名
釧路湿原に棲む絶滅危惧種ニホンザリガニの生態を学び、生息環境を観察します。



6月

○春の湿原花ハイク 定員 15名
7日(日) 10:00~12:00

いよいよ花のシーズン到来です。春を代表する湿原の花々を観察しましょう。



11月

○リースを作ろう 定員 15名
29日(日) 13:00~15:00

もうすぐクリスマス。自然の素材を使ってオリジナルリースを作りましょう。



7月

○初夏の湿原花ハイク 定員 15名
5日(日) 10:00~12:00

初夏の花を観察しながら湿原の植物の不思議な生態を観察してみましょう。



12月

○初冬の湿原ハイク 定員 15名
6日(日) 10:00~12:00 定員 15名

これから本格的な冬を迎える釧路湿原。植物の様々な越冬作戦を観察します。



○ホタルウィーク 定員なし
15日(水)~19日(日) 19:00~20:30
釧路湿原に棲むヘイケボタル。そのふしぎな生態を学んでから夜の湿原へと出かけます。

1月

○厳冬の湿原ハイク 定員 15名
17日(日) 10:00~12:00

何も無いように見える厳冬期の湿原で、冬ならではの生きもの観察をしましょう。



8月

○夏の湿原花ハイク 定員 15名
2日(日) 10:00~12:00

盛夏の釧路湿原花々をじっくりと観察します。熱中症対策を忘れずに。



2月

○歩くスキーで湿原ハイク 定員 15名
7日(日) 10:00~12:00

冬の湿原はどうなっているんだろう? 歩くスキーで楽しみながら湿原観察を行います。



3月

○湿原の裏山でスノーシューハイク 定員 10名
6日(日) 10:00~12:00

スノーシューで湿原の裏山に登り、森を観察しながら冬にしか行けない展望地を目指します。



※ホタルウィーク以外は事前に申し込みが必要です。詳しくはビジターセンターにお問い合わせください。

~開館時間が変わりました~

4月1日より開館時間が変更になりました。夏季(4/1~10/31)の開館時間は午前10時から午後5時までです。

夏時間とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。木道を歩く際には防寒対策を行いましょ。



月刊 温根内通信 No. 223

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Onnenai.VC>

開館時間: 10:00~17:00(11月~3月は16:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29~1/3は休館) 入館無料